

b-2 気温上昇と熱中症対策に関する情報収集(日傘アンケート)

【ヒアリング実施概要】

- 県民が日々の生活において実感している、暑熱に関する気候変動影響情報を、屋外県有施設における日傘の貸し出しを通じて情報収集する。
- 影響情報のほかに、屋外施設への来園者に対して、近年の夏の暑さの実感や、最近、自らが実施している屋外施設での暑さ・熱中症対策などをヒアリングし、気候変動影響に関する県民の意識についても情報収集する。
- エリア : 屋外県営施設(ぎふワールド・ローズガーデン(旧花フェスタ記念公園))
年齢性別 : 問わない
サンプル数 : 計464名(県内356名、県外108名)

【ヒアリング項目】

- 「日傘の使用感」「熱中症症状の認知度」「屋外で行う対策とその頻度」等

【実施期間】

- 令和3年9月

【実施者】

- 岐阜県気候変動適応センター
- 外部委託事業者

b-2 気温上昇と熱中症対策に関する情報収集(日傘アンケート)②

【聞き取り結果 概要】

〈問2. 普段から日傘を利用しますか。〉

- 図-6.1に示すとおり、男性被験者のうち日傘を普段から利用すると回答した割合は12%程度であったが、日傘を試しに利用した後の感想(図-6.2)では、65%の男性が日傘の使用に肯定的な回答を選択した。女性被験者についても、日傘を利用した後は97%が、今後も日傘を利用することに対して、肯定的な回答を選択した。
- 本社会実験により、日傘の効果を実感することによって、日傘を積極的に利用する方向への行動変容が促されることが明らかとなった。本社会実験の結果は、県民の暑熱への対策として日傘の使用を呼びかける材料として利用することが大いに期待される。

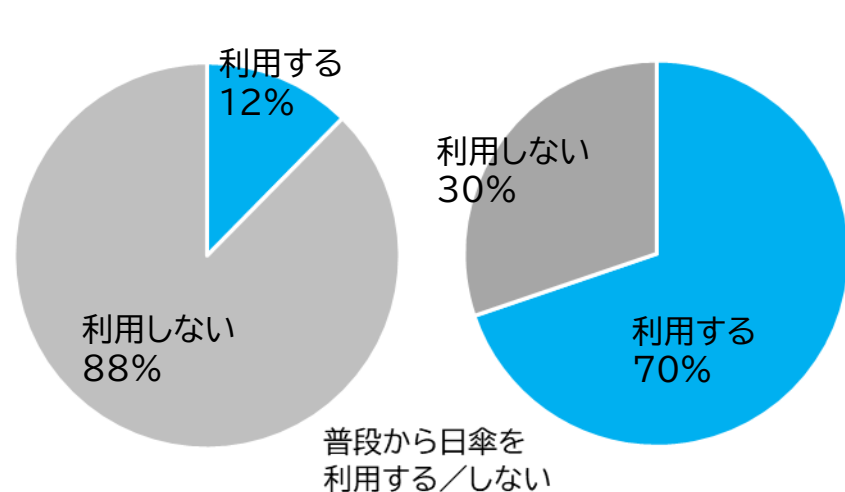


図-6.1 普段から日傘を利用しますか 左:男性, 右:女性

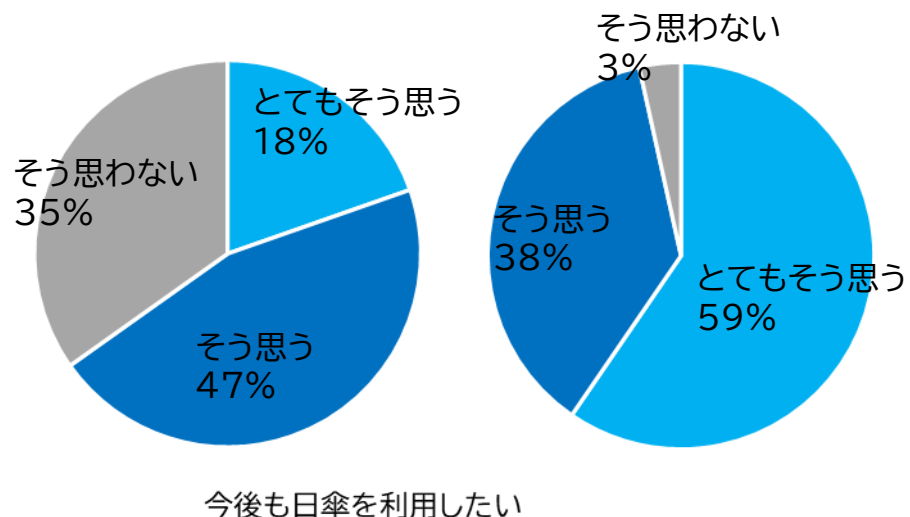


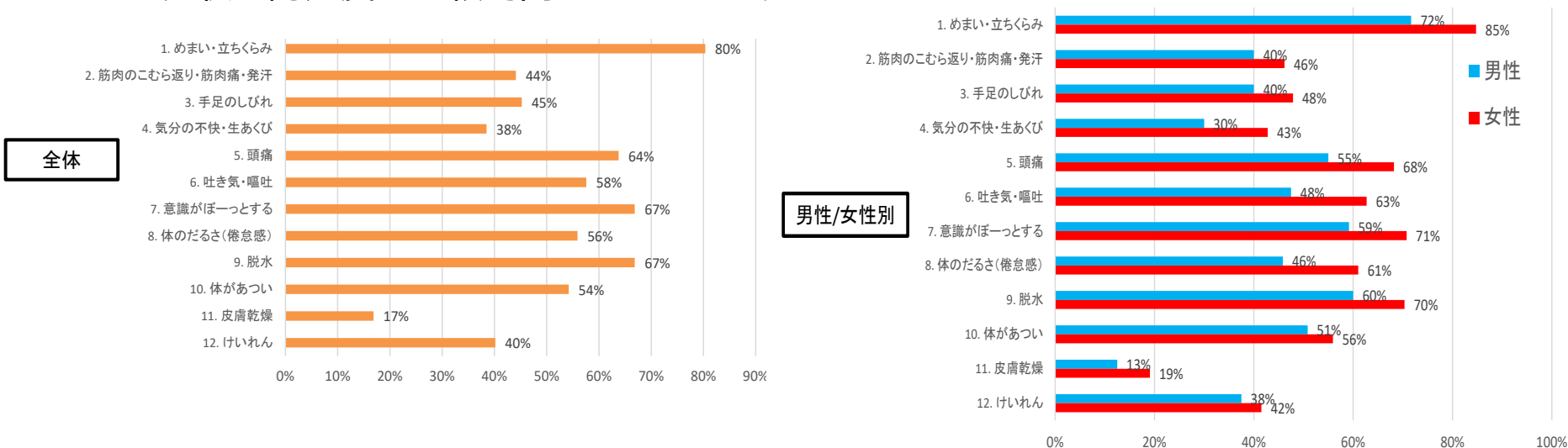
図-6.2 今後も日傘を利用したいですか 左:男性, 右:女性

b-2 気温上昇と熱中症対策に関する情報収集(日傘アンケート)③

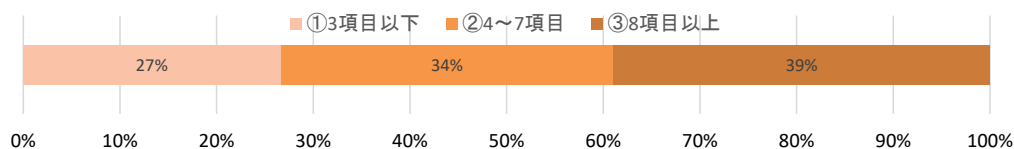
【聞き取り結果 概要】

〈問8. 熱中症の症状だと思われるものをお答えください〉

- 「めまい・立ちくらみ」の症状の認知度が80%と最も高く、「頭痛」「意識がぼーっとする」「脱水」といった症状の認知度が比較的高くなっている。



- 熱中症の症状として認識している項目数を ①3項目以下 ②4～7項目 ③8項目以上 に分類し集計をおこなうと約39%の方が8項目以上認識しているという結果になった。

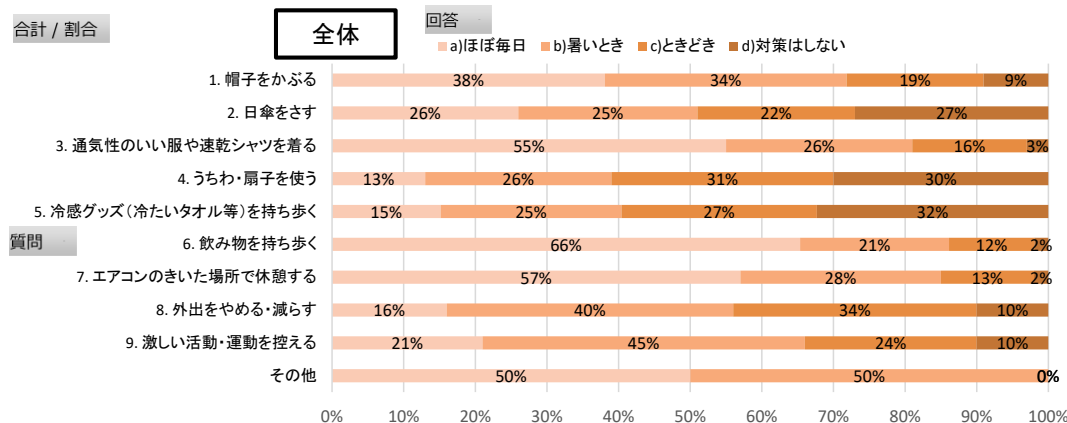


b-2 気温上昇と熱中症対策に関する情報収集(日傘アンケート)④

【聞き取り結果 概要】

〈問10. あなたが屋外で行っている対策とその頻度を教えてください〉

- 9割程度の回答者が「飲み物を持ち歩く」「エアコンのきいた場所で休憩する」「通気性のいい服や速乾シャツを着る」などの対策を実施している。特に6割以上の回答者がほぼ毎日「飲み物を持ち歩く」と回答している。



- 男女による違いを見ると、女性のほうが対策の頻度が高く行動を積極的に取る傾向が見られる。

